

ごあいさつ

「古河電工グループ」は、 環境に配慮した活動を徹底し、 継続的发展を成し遂げます。

当社は、厳しい状況にありますが、創造的で世界に存在感がある企業を目指して、事業の再編や人員の適正化などに取り組んでいます。2004年4月には事業運営の責任主体であるカンパニー制と、本社側のチーフオフィサー制とに経営体制を変革しました。そして、現場と現物に着目し基盤となる物作りと人づくりを確固とすることで、利益を創造し続ける仕組みの構築に取り組んで来ました。さらにチーフオフィサーが責任者となって、販売力の強化、生産性の改善、研究開発の推進や人材育成ばかりでなく、不良や災害の撲滅および環境への配慮などを、全社で徹底させて行きます。

環境活動につきましては、「循環型社会」の実現に向け当社と関連グループ各社が協調し、到達すべき水準と時期を明瞭にした上で、環境負荷の低減や資源生産性の向上に継続して取り組みました。また、製品への含有化学物質管理や土壌汚染調査など、環境リスクの低減活動を積極的に実施しました。

企業にとって社会との関わりは多様化しており、構成員として要求に答えるよう、社会に配慮した活動として、まずコンプライアンス委員会を設置し、企業行動憲章を制定して法令の遵守や行動の規範を社員に周

知しました。従業員の安全や健康の促進などにも配慮しました。それぞれの事業所では、地域社会への貢献、排気や排水が法規制に適合していることを確認、廃棄物管理を徹底するなどコミュニティからの信頼強化に継続して取り組んでいます。社会貢献活動としては特に、2004年12月26日に発生したスマトラ島沖地震の救援活動支援を行ないました。

2004年度は3年ぶりに黒字となり、古河再生の道筋が見えて来たと思います。不退転の決意で一層の改善に取り組んでまいります。どうか当社の環境や社会への取り組みに理解をいただき、皆様のご支援とご協力を御願い申し上げます。

取締役社長 CEO兼COO

石原 廣司



古河電工グループの企業理念

経営の基本方針

- ・お客様を大切にすること
- ・人を大切にし、活かすこと
- ・創造力を活かし、新技術に挑戦すること

ビジョン

技術革新を志向し、
創造的で世界に存在感のある
高収益会社をめざす

経営の方針

- ・スピード経営の実践
- ・利益志向
- ・新商品・市場機会の創出
- ・グローバル経営の発展的な展開
- ・構造改革の継続的推進
- ・連結経営の強化

古河電工環境基本方針

[基本理念]

古河電工は地球環境の保全が社会の最重要課題の一つであることを認識し、企業活動のあらゆる面で環境に配慮して行動し、明るく豊かで、持続可能な発展のできる社会の実現に貢献する。

[行動指針]

企業活動が地球環境に与える影響を常に認識し、従業員全員で環境保全活動に取り組む。

環境法規制及び顧客その他の要求事項を遵守するとともに、自主的な基準を設定し、管理レベルを向上させる。

環境目的・環境目標を設定し、活動を計画的に実施することにより、環境保全の継続的な向上を図る。

研究・開発・設計の各段階から環境影響に配慮した製品の提供に努める。

購買・製造・流通・サービスなどの各段階において、省資源、省エネルギー、リサイクルの推進及び廃棄物、環境負荷物質の削減に取り組む。

環境監査を実施し、環境マネジメントシステムと環境保全活動を見直し、継続的改善を図る。

環境教育を通じて、全従業員の意識の向上を図るとともに、情報開示並びに社会とのコミュニケーションを促進し、積極的に地域活動に貢献する。

当社と関連するグループ各社は、「循環型社会」の実現を目指し、継続的な環境保全活動に取り組んでまいりました。これは生産や販売などの企業活動とは無縁ではありませんから、原価の低減、資材調達、設備技術、品質改善および安全衛生管理などと併せて総合的に取り組みました。

当社の基幹事業は、銅製品、電力・通信ケーブル、電装エレクトロニクス製品、産業機材など多岐に渡ります。それぞれの分野で新商品の比率を高める研究開発を行っており、特に「独創型、市場開拓型の新商品」を生み出すことで、収益向上と成長力の発揮を目指しています。ECOLINKと名付けた環境調和型製品は、開発の柱の一つになっています。本年も、架橋ポリエチレンをリサイクルした灌用水多孔質パイプ、鉛フリー半田に対応したリフロー

炉、簡単にコンクリートから離型し再利用出来るメカスリーブ、照明機器用ハロゲンフリー電線、ベリリウム銅代替銅合金などを上市しました。また、現在開発中の「高温超電導ケーブル」は500mの現場送電試験に成功しました。これは世界最高水準であり、実用化すればエネルギー問題の改善と地球温暖化防止に寄与すると期待しています。

製造現場では継続して環境負荷の低減活動を行っており、廃棄物については処理費用の削減に取り組み、大きな成果を上げました。これは徹底した分別と再利用用途の開拓を実施した結果であり、ひきつづき廃棄物の削減、温暖化ガス排出量の削減および化学物質排出量の削減などに取り組んでいきます。

2004年に実施した当社の様々な活動を環境報告書にまとめました。ステー

クホルダーの皆様との相互理解を深めて参りたいと思いますので、お読みいただき忌憚の無いご意見をお聞かせ下さい。



環境担当役員
常務取締役 CPO

黒川通豊